

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	施設運営理念に基づき、個々の尊厳を守り、その人らしい生活を支援している。一人一人の存在が価値あるものであると認識する様に常に理念を念頭においた支援を目指している。	○	現在に至るその人の生き方、楽しみ方を継続出来、家族や仲間との連携を蜜にしている。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	定例の会議の中で理念に則した支援ができていくか互いに確認している。	○	一人一人の思いを叶える様に、個々の意見や希望を其の都度聞いていく姿勢を持つ。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進委員会、家族交流会、行事などを通じて機会があれば、理念に則した支援に取り組んでいることを報告している。	○	近隣の人々が、気軽に遊びに訪ねて下さる雰囲気作りをしていく。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣での毎日の散歩や、100円市での買い物を通して、挨拶をしたり、立ち話をして交流を図っている。挨拶をする習慣ができていく。	○	出勤時の朝・夕の挨拶や、自治会主催のイベントの参加を積極的に呼びかけていく。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事、地域の学校行事の情報収集や広報等を活用し、参加出来る行事に積極的に参加する。	○	ボランティア、地域交流委員会を通じて検討していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域活動として、法人全体で福祉委員、民生委員さんの活動に参画している。ふれあいサロンの協力、会場の提供など地域活動に積極的に参加している。	○	地域交流委員会、ボランティア委員会を通じて、今後どの様にしていくか、検討していく。
3、理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価を受けることで、ご家族や第三者の評価や意見を得ることで業務改善につながる。	○	評価内容を参考にし、出来る事から改善していく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進委員会会議を開催することで、家族、地域の人からの真摯な意見を聞かせていただくことで職員の仕事に対する意識が変化した。家族、地域、公的機関など協力、連携の大切さを学んだ。	○	定期的（3ヶ月に一度）に、運営推進委員会を開催し、地域、家族、行政との交流を図っていく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催の会議、派遣相談員の会議の参加を行い、サービスの向上に努めている。	○	市からの情報、相談を通じて、行政サービスが利用し易い様にしていく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修を通じて、職員間の学習の場に活用している。又、パンフレットやポスターで啓発活動している。	○	今後は、問い合わせに対して其の都度、学習した成年後見制度等について、説明出来る様にしていく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会参加や、虐待防止関連法の周知を行っている。	○	虐待防止関連研修の参加を積極的に図っていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p> <p>入所時、契約時に、生活相談員、管理者、リーダーから十分に説明を行い、家族の理解、納得を得ている。</p>	○	家族からの疑問やクレームに対して、迅速に対応し理解を得られる様にしていく。
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>利用者の意見に対して、謙虚な姿勢で受け止める様にしている。相談員からも利用者の意見を聞き、不満解消に努めている。</p>	○	意見箱の設置や、自分の思いや願いを、ストレートに伝えられる雰囲気作りをする様に心掛けている。
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p> <p>定期的に家族への新聞、お便りに普段の様子を伝えると共に、健康状態の変化やイベントへの参加・相談なども其の都度連絡している。家族交流会にほぼ全員のご家族が参加されるので、居室担当から日頃の様子を伝えたり、特変時には電話で報告をしている。</p>	○	家族との連携を積極的に図っていく。
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>苦情受付担当職員を配置し、又介護相談員を公表している。入所時に苦情窓口を知らせている。苦情対応は迅速にすることを心がけ、お互いの信頼関係を壊さないようにしている。</p>	○	担当職員から、継続的に対応をしていくと共に、苦情内容を記録し、ケアに生かした上で、再発防止する。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p> <p>毎月、ユニット会議を開催し、職員間でのケアの統一を行っている。今回の外部評価を各職員に記入してもらい個々の意見、提案を管理者は聞く機会を得た。</p>	○	具体的な改善案の検討や、実行出来る様にしていく。
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p> <p>利用者の生活に合わせて、シフト表を作成している。又職員の希望も聞きながら作成している。イベントなどで人手の必要な時は職員の積極的な協力がある。現在、外出イベント、手づくり料理など職員の活発な提案で活動範囲が広がり、勤務時間は柔軟にしている場合もある。</p>	○	主治医往診、行事、外出等には、人員配置を多めにして配属している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動に関して、利用者が不安感、動揺を生じない様に、利用者、家族に丁寧に説明を行い、配慮している。家族交流会、お知らせなどで報告している。	○	利用者、家族からの問い合わせや、不安感を持たれた時は、早急に対応出来る様にしていく。
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	リーダー研修や新人研修、現任研修を定期的に行っている。	○	外部研修で学んだ事は、全職員のスキルアップに繋がる様に反映させていく。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム同士の交流会、法人内のグループホームの会議を通じて、情報交換を行い、サービスの向上に努めている。平成20年1月に池田市グループホーム連絡会が発足し定期的に勉強会、意見交流をしている。市の高齢福祉課とも連携をとっている。	○	地域のグループホームの交流を深め、互いに研修する機会を増やしていく。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員が、バーンアウトにならない様に、勉強会、ユニット会議、親睦会を通じて、交流を図っている。歓迎会、忘年会などを通じて気分転換を図っている。イベントを共同することで、職員の活動性もひきだせている。精神的に不安定な状態が見受けられた場合は面談をしている。	○	職員の働きやすい職場作りをしていく。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員が、向上心を持って働きやすい環境、システム作りをしている。資格修得をすすめている。資格修得のために定期的に勉強会が開催されている。	○	研修、勉強会の参加、資格修得を通じて、各自が知識を深める様にアドバイスしていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所時のアセスメントの充実、家族や本人からの希望や生活歴を十分に把握している。本人の日常生活に寄り添うことで、不安、希望を受け止めようとしている。	○ 家族の訪問時や本人からの日常会話の中から、希望や願い意思確認を其の都度して、実行出来る様に努めている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の訪問時には、コミュニケーションを十分に取り、信頼関係を構築する様、努力している。	○ 家族の思いや不安感を受け止め、利用者の生活を家族と協力して築いていく様に努めていく。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族からの気付き、提案を受けた時、チーム内でカンファレンスを持ち、適切な支援の実施をしている。統一した支援が困難な場合はカンファレンスもち、多方面からの意見、提案を検討するようにしている。	○ 出来るだけ、一人一人の希望に添った支援をしているか、常に家族、本人の状態を見ながらしていく。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族の意見、利用者の状況を見ながら、新しい環境に馴染めるように支援している。自分の存在が周りに受け入れられているか不安を持たれているので、周りの利用者との調整を図りながら職員の介入をしている。	○ 常に本人の状態を観察しながら、職員本位の支援にならない様努めていく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	行事や日常生活の中で、利用者から教えて頂く事が多く、互いに尊敬出来る関係作りをしている。お手伝い頂いた時や、知恵、知識をいただいた時には、必ず感謝の言葉を伝えている。	○ 利用者の感情（喜怒哀楽）に寄り添って、共に生活している雰囲気作りをしていく様に努めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	毎月、居室担当者からコメントを書いた行事予定表をお渡ししている。定期的な家族交流会で、支援の方法についてご家族と真摯に話し合うことで、信頼関係が築かれるように職員一同努力している。喜怒哀楽を共にするまでは今後ご家族の協力を益々、必要になる。	○	家族とのコミュニケーションを密にして、報告相談しながら、利用者を支援していく様に取り組んでいる。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者とのコミュニケーションの中で、家族に対する思いや優しさを受け止め、家族に伝えている。面会の少ない家族に対して、できるだけ職員から情報提供する時、訪問が楽しみになる環境づくりができていくか検討している。	○	日常生活の支援を通して、共に生活している仲間である事を感じて頂く様に、言葉掛けをしている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者とのコミュニケーションの中で、趣味活動や友人、知人関係を伺って、関係を繋いでいく様努めている。ご友人や、教え子が訪問される場合、本人に恥じをかかせないように職員の臨機応変な対応が必要になるが、現段階では環境づくりが不十分。	○	行事や誕生日会を企画して、家族や地域の方との馴染みの関係作りをしていく。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日常生活の中で、互いに助け合ったり、思いやりを持たれる協力関係を築く様、努めている。個性が強く、ぶつかり合うこともあるが、職員が介在して、和を保てるようにコミュニケーションをとる努力をしている。	○	日常生活の支援を通して、共に生活している仲間である事を感じて頂く様に、言葉掛けをしている。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後もグループホーム内の行事やイベントに参加して頂ける様、ご連絡している。特養に転居された方はクラブ活動に参加されたり、イベントに招待して交流をしている。	○	グループホームの新聞、お便りをお送りして、気軽に遊びに来られる様にする。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活なかで、自然に利用者の思いや希望を引き出せるように話し掛けたり、話しやすい環境づくりをこころがけている。常に利用者の意向を優先したサービスを意識して支援をしている。	○	センター方式の充実、ICFに基づいたアセスメント方法を取り入れたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族に「センター方式シート」を説明し、記入して頂き、把握に努めている。アセスメントの充実により詳細な情報を得るように努めている。入居後、利用者、家族との会話から情報を得て、職員間で情報は共有している。	○	利用者の意向に添った支援をチーム内で統一して実施していく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の生活を、職員が観察、記録する事によって、現状を把握している。利用者個々の出来ること、出来ないことを把握した上で、日々の気分、体調に応じてその方の一日の過ごし方をきめている。活動量がるように毎日の体操、散歩をしている。	○	チーム内で統一した支援を実施していく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は利用者、家族と話し合い作成している。家族からの提案、利用者からの希望を取り入れ、職員の支援の範囲を検討しながら、柔軟な対応で介護計画に反映させている。	○	可能な限り、ご本人の意見、意向を聴いて、介護計画に反映させていく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月毎、介護保険の更新時、区分変更時、30日以上入院があった場合、その他生活者様に著変があった場合には、サービス担当者会議を開催し、新たな介護計画を作成している。体調の変化、介護量の変化により介護計画の見直しはカンファレンスの機会をもち内容を検討している。	○	病気等で状況変化があった場合、援助計画の変更をして状況に即した支援を迅速にしていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子を、個別のケース記録にしている。介護計画はケース記録に反映されるようにしている。記録は職員全員が確認できるように徹底を図っている。職員間の申し送りノートを充実させることで変化の多い利用者の状況を把握できている。	○	事務的な負担を軽減する為、重複記入している部分を無くしていく書式を考案する。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接している「特別養護老人ホーム」の行事に、家族、本人と一緒に参加している。喫茶、屋上庭園も利用している。理美容も要望に応じて利用している。	○	他のユニット同士の交流をしながら活動性を上げていく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	各利用者の多様な趣味に答えるため、様々なクラブ活動をしている。詩吟、絵画、折り紙、書道。朗読など。各ボランティアさんの協力を得て、定期的に活動をしている。各ボランティアさんとの交流も楽しみになってきている。	○	地域住民との茶話会など開催していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	グループホームの為、制約があるが、グループホーム同士の交流を通じて、ケアマネジャー同士の連携を図っている。	○	地域のグループホームのケアマネジャーとの交流、勉強会への参加をしていく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今のところ、権利擁護のケアマネジメントの必要性がない。運営推進委員会で地域包括との連携をとりながら学習していく。又、管理者が主任介護支援専門員研修で学んだことを職員研修に生かして行く。	○	今後、検討していく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	人居前の受診状況を把握し家族の希望に応じて、主治医を決めていただき、受診支援をしている。必要に応じて提携医療機関の紹介をしている。状態の変化、特変があれば、家族に連絡しながら、医療機関に繋いでいる。定期的な医師の往診に際し、状態報告し、薬の処方、アドバイスを受けている。	○	往診時、家族様と同席できる様、連絡を取り支援していく。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	併設の施設の精神科医や、主治医からの紹介で専門の精神科に受診をうけている。	○	本人、家族、職員が専門医と、直接会話できる機会を作っていく。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	現在のところ、看護体制が充実していないので、併設の特養の看護師の援助を受けている。	○	今後は、日頃の連携と緊急時の対処を密にしていきたい。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	かかりつけ医の指示のもと、適切に入院でき、又病院関係者と情報交換し、早期に退院して、ADLを維持した生活が出来ている。	○	訪問医との連携、主治医への連絡、相談をしていく。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化してグループホームの生活が困難になってきた場合家族、ドクター、職員がカンファレンスを持ち、併設の特養に入居されることが多い。	○	併設の特別養護老人ホームへの利用も検討して、重度化、終末期に向けて、家族の思いを受け止めていく。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族、医療従事者、職員間のカンファレンスでチームの統一した方針の共有を図っている。家族交流会において方針の説明をしている。	○	グループホームのチーム内で、出来る事、出来ない事を明確にし、家族とのカンファレンスを充実させ、安心出来る終末期の対応を検討していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	介護サマリーを交付したり、ケア関係者間で話し合い、情報交換をしたりして、住み替えによる混乱が少なくなる様努めている。	○	住み替え場所のケアマネージャーに情報を伝え、今後の相談にも応じていく協力関係をつなぐ。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人生の先輩としてのお声掛け、言葉掛けなどで、利用者が不愉快な思いをもたれないように、全職員心がけていますが、不用意な言葉使いに気づいた場合は注意をしています。記録又は個人情報など、利用者の目に触れない場所で記入しています。	○	利用者の尊厳を守り、丁寧に支援する努力をする。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	思いを言葉に出来る方は、ご本人の望む事項を傾聴している。意思疎通が難しい方にも非言語で疎通を図るように努力しています。ご家族や、担当職員の意見も参考にして、本人の思いを知るようにしています。希望どうりになかなか添えない場合は、出来るだけ不満がたまらないように支援の方法を検討している。	○	日常生活の中で、自分の意思を表現できる環境作りをする様に努める。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	同上	○	散歩、クラブ活動、行事の参加など、利用者の意向を尊重している。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	1～2ヶ月に一回、意思決定の出来る人は、本人の訴え時に、それ以外の方は、家族様了解のもと、理美容室へ行っている。外出時、イベント参加時はおしゃれが出来るように、アドバイスをしています。	○	買い物や外食、外泊、趣味活動の機会を設け、個々の意向に添った支援をしている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	おやつ作り、昼食の汁物作りは、利用者と一緒にして頂いている。
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	○	飲み物の選択、煙草、お酒は、利用者の意思に任せているが、体調によりアドバイスしている。
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	○	個々にカンファレンスを行って、排泄用品を決めている。昼間は出来るだけトイレ利用を促している。
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	○	個々の希望に合わせて、入浴時間、入浴回数を決め、臨機応変に対応している。
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	○	リビングでも、自室でも清潔、安全な環境を整えていく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	○	音楽療法、ダンスなど活動範囲を広げて行きたい。文化活動を取り組みたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお小遣い(財布)管理をしている方は、1名います。金銭の管理は本人だけでは難しいが、買い物に行く時、自分の財布から支払いたいとの意向があり、中身を管理しながら支援している。	○	自分で管理出来る事が楽しみにされているので、残高を確認しながら買い物時には職員が見守り対応をしていく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日、散歩に出かけることが一番の楽しみです。午前、午後と2回、3回と要望を出されます。各自の体力に合わせて、散歩コースを決め出来るだけ、全員の方に毎日散歩に行ってもらえるように工夫している。	○	定期的に散歩の時間を取り、施設の周りを30分程散歩している。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	落語、コンサート、外食、花見など行っています。定期的買い物にスーパーに車で出掛けている。	○	個別外出支援を積極的に行っていきたい。宝塚歌劇に行きたいとの希望もあり実現できるようにしたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	直接、家族様と電話をしたいと訴えがある時は、適宜ご自身でして頂いていますが、帰宅願望が強い場合職員が介入して家族さんと協力して電話をしていただいている。	○	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	実施しています。	○	友人、知人の訪問が時々ある。いつでも訪ねて頂ける雰囲気作りをしていく。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則、身体拘束はしていません。	○	身体拘束廃止委員会への参加を通じて、学習、勉強している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	○	利用者同士のトラブル解決方法を職員間で統一してケアしている。
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	○	付き添い、見守り、様子観察をしていく。
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	○	危険を回避する為、事前に察知できる様に見守りを徹底している。
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	○	危険物は利用者の目の触れない場所に保管している。常にリスクマネジメントを念頭に計画立案していく。
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	日常のあらゆる場面を想定した非難訓練を行いたい。
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	同上

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	リスクの高い利用者の家族様とのカンファレンスを必要に応じ開催しています。	○	家族への報告を迅速に行う様、努めていく。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	実施しています。	○	家族への報告、相談をし、かかりつけ医との連携を取りながら、迅速に対応していく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時、細心の注意を払い、確認しながら服薬援助しています。薬剤師との連携を徹底しています。副作用などの知識も学習してから、服薬支援をこころがけています。	○	薬剤師との連携を取り、家族、職員を対象に「薬の豆知識」講座を開催しました。歯科医との連携、学習会を開催しました。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表を基に、ドクターと相談しながら、服薬、水分補充をしている。	○	服薬に頼らず、習慣としてのトイレ排拙、運動、食事などで、便秘を改善していく取り組みをする。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝、昼、夕食後は声掛けをして、口腔ケアを促しています。入れ歯、歯ブラシを定期的に消毒をしている。	○	定期的に歯科衛生士による口腔チェックを受ける事ができる様、支援していく。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	実施しています。	○	水分摂取を積極的にされない方には、声掛けや好みの飲料を提供している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎日、塩素モップで床拭き、手摺り拭きをしています。外出後はうがい、手洗いを徹底している。	○	ノロウイルス、インフルエンザなどの流行時に備えている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食洗器を使用しています。冷蔵庫の中、台所の清潔を維持している。	○	定期的に委員会で勉強会をして、チェックしている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	自然環境が良く、周りは緑があふれている。ガーデニング担当が定期的に花壇の整備行っています。	○	日除けにもなるゴーヤなどの植物栽培を、春になったら行いたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにソファ、机など設置して、くつろげる空間を作り、季節感を感じるディスプレイをしている。	○	リビングにソファを設置し、くつろげる空間作りをしている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下、リビングにくつろげる場所をつくっている。	○	廊下やリビングにくつろげる空間がある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	馴染みの家具、小物、写真を飾り自分らしい空間 づくりを支援している。	○	自分の居室が分かり易い様に、馴染みの家具や写 真を設置して頂く様に、家族に依頼している。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	行っています。換気、室温の管理を時間を決めて している。	○	利用者の状態を見ながら、温度、湿度を設定して いる。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	行っています。	○	手摺り、杖、歩行器など身体に合わせた補助具を 利用して、自由に移動されている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	行っています。トイレの場所、風呂場などわかり やすい表示をしている。	○	トイレ、居室には、利用者が理解、判断し易い様 に、看板や印をつけている。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	ベランダ、プランターの水遣りは、利用者が行っ ている。洗濯干しなども利用者と共同でして いる。	○	隣接の特別養護老人ホームの屋上で畑作りをし、 水遣り当番がある。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

毎月1回の家族交流会を開催して、顔の見える関係作りを構築していった。

利用者の声から生まれた麻雀や、ボランティアさんとの交流で生活に潤いと、活性化が引き出せた。日頃の顔の見える関係作りをしていくように、これからも利用者の声に耳を傾け、楽しい時間を共に創造していきたい。家族、地域の方の協力が大きくなり、職員にとって力になっている。